４９．リハビリテーション研究の動向　－　総合リハ誌論文の調査より

研究所 福祉機器開発部　井上剛伸，白銀暁，川﨑めぐみ

近年のめまぐるしい技術革新や、医療・福祉関連の制度改革、国連障害者権利条約の制定に伴う障害やリハビリテーションに関する意識の変革、国連 SDGs に見られる世界的なイノベーションの取り組みなどにより、リハビリテーションに関する研究も、大きな転換期を迎えている。一方で、当センターの組織改変の議論も進められており、今後の見通しを立てるための包括的な整理が必要となっている。それらを受け、今回、総合的なリハビリテーションの論文誌を基に、過去 20 年のリハビリテーション研究の動向を調査したので、その結果を報告する。

調査は、「総合リハビリテーション」（医学書院）の 2002 年 1 月から 2021 年 9 月までに発行された 20 年間分、全 237 冊に掲載された特集記事 1,249 件および研究論文 491 件を対象とした。各論文に付されたキーワードを抽出し、5 年ごとのデータセットを作成した。各年代ごとのキーワードをユーザーローカル テキストマイニングツールを使用し、TF-IDF 法（Wikipedia:https://ja.wikipedia.org/wiki/Tf-idf 参照）による重要度スコアを算出した。算出したスコアに基づき、各年代毎に順位付けし、上位 20 位までのキーワードを分析対象とした。

特集記事の解析結果を図 1 に示す。ここでは、キーワードの時間的推移に着目するために、2 つの年代以上で抽出されたキーワードのみを記載している。この結果から、対象疾患としては，脳卒中が各年代を通じで高い順位にあり、脊髄損傷は順位に変動はあるものの 20 年間を通じで上位にあること、高次脳機能障害は 2007～2011 で高い順位にあることなどが示された。また、運動療法や歩行、装具、といった介入方法も見られた。後半の 10 年間では、急性や連携、支援といったワードが示され、急性期リハやチーム医療・介護の進展が見て取れる結果となった。

研究論文に関する解析結果を図 2 に示す。対象としては、脳卒中は常に高い順位にあり、高次脳機能障害は 2007 年から 2016 年にかけて上位に位置している。ADL や,QOL,FIM、筋電図、筋力などの評価に関する項目が、前半に上位にあり、それらの研究が進んだものと考えられる。また元データを確認したところ、伸展は膝に関する論文が多く、これも評価との関連と考えられる。上肢については、2007～2011 年に上位にあり、上肢のリハに関する研究が進んだ時期と考えられる。後半の特徴としては、転倒や回復期リハが特徴的なキーワードとしてランクされている。

表 1 は、2017～2021 年の 20 位までのキーワードを示している。それ以前には表れていないワードを抽出すると訪問リハ、ICF、摂食嚥下、チーム医療、再生医療、地域づくり、社会参加、自動車運転関連などが挙げられ、これらは今後さらに発展する可能性のある領域と考えられる。

当センターの活動と対応すると、高次脳機能障害はまさに日本を牽引してきたと言え、再生医療後リハ、自動車運転、摂食嚥下、ICF などすでに取り組んでいるもの多くある。一方で、地域づくりや訪問リハビリテーションなど、今後の展開が必要なものもあり、これらを勘案し、リハビリテーション研究を牽引する役割を果たしていくことが重要と考えられる。

尚、資料収集には企画・情報部の協力を、データセット構築には学院秋田真珠氏の協力を得た。

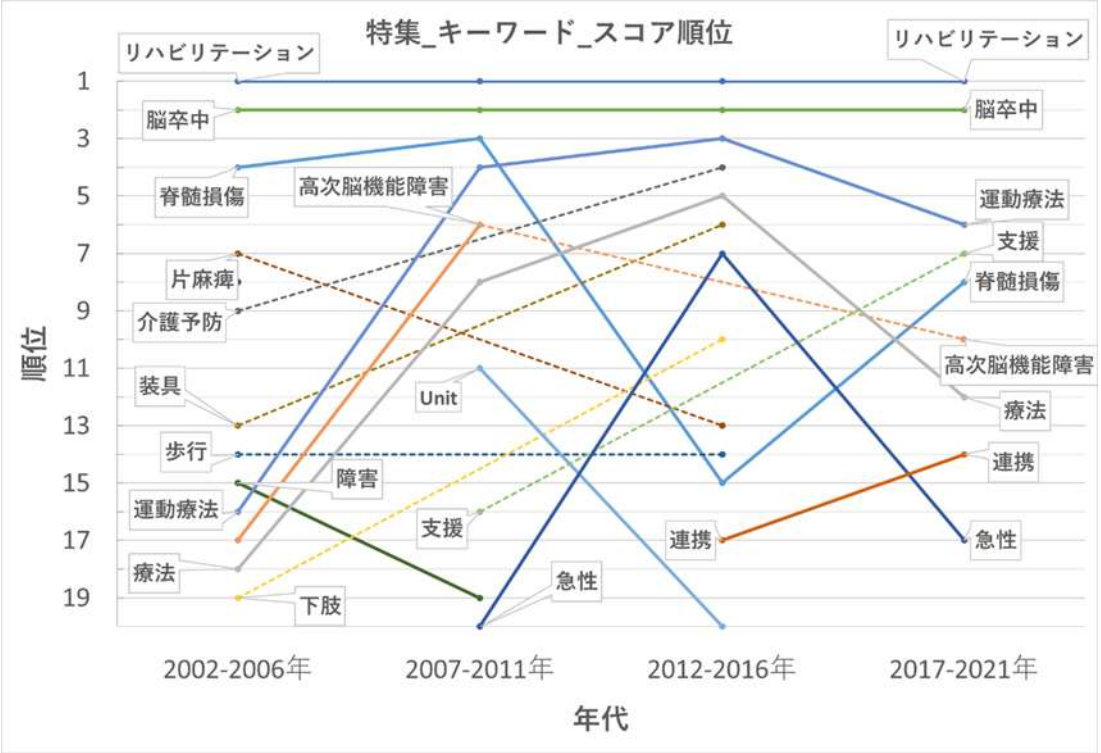

図１　特集記事を対象とした解析結果

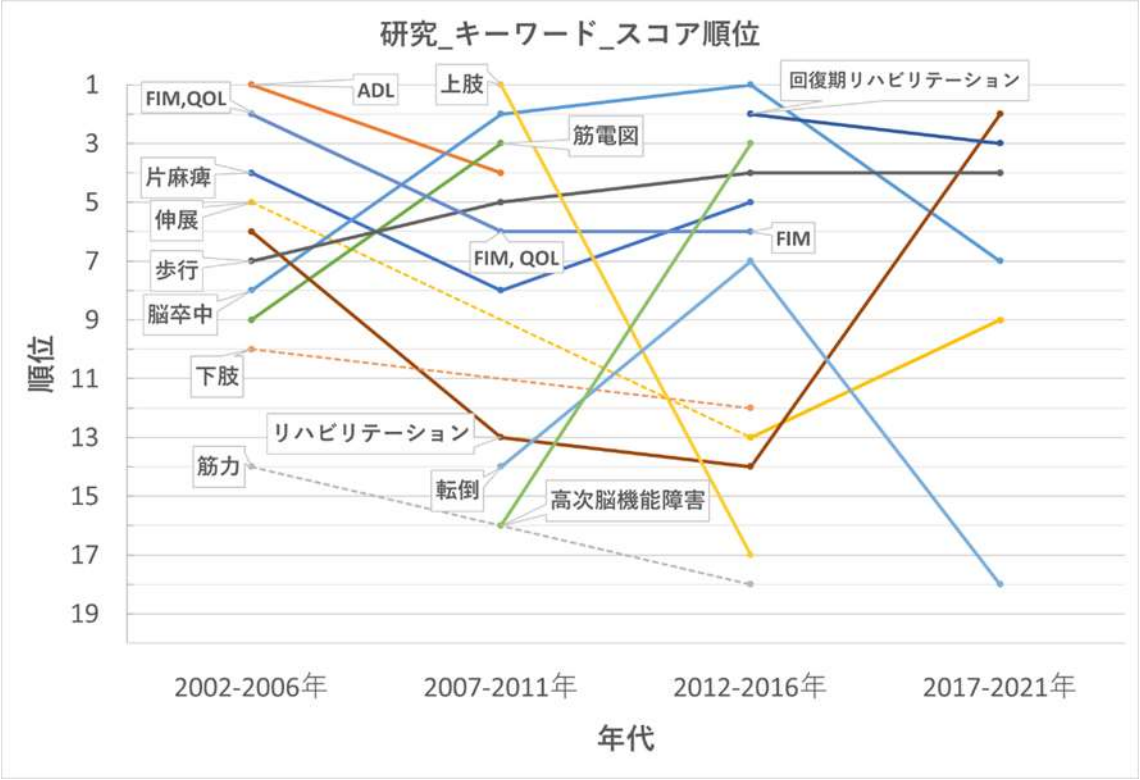

図２　研究論文を対象とした解析結果

表 1　2017～2021 年の上位 20 位までのキーワード

赤字はこの年代で新たに上位にランクされたワードを示す。

順位	特集	順位	研究
1	リハビリテーション	1	介護予防
2	脳卒中	2	リハビリテーション
3	訪問リハビリテーション	3	回復期リハビリテーション
3	回復期リハビリテーション	4	歩行
3	ICF	5	嚥下障害
6	運動療法	5	地域づくり
7	支援	7	脳卒中
8	脊髄損傷	8	社会参加
9	摂食嚥下	9	伸展
10	高次脳機能障害	9	趾
11	チーム医療	11	嚥下
12	療法	12	ドライビング
13	再生医療	13	造影
14	連携	14	シミュレータ
15	職種	15	装具
16	就労	16	置換
17	急性	17	自動車
18	排尿	18	転倒
19	病棟	19	座位
20	置換	20	急性